



小松 正真 議員

一問一答方式

一般財団法人TRCについて

市長 遠野市の新しい第三セクター

問 設立の背景と目的は。

答(市長) 空き家対策を行うために設立した。例えば債権債務の問題を抱えている物件、金融機関や弁護士さん等、様々なところとの協議が必要になる。また、競売物件等、金額のやり取りをしていかななくてはならない。これは行政での取り組みには限界があるため、設立に至った。

問 現在の状況は。

答(市長) 本年4月28日に設立登記した。現在は中央通りにある、遠野テレビのまちなかスタジオ内に事務局を設置。代表理事等役員8名、非常勤職員1名の体制で業務を行う。遠野市移住相談員も1名配置予定である。

問 今後の計画は。

答(市長) 令和5年度は3件取り組みたいと思っている。しかし、3件に着手して3件できるものではないと想像している。10件着手して3件程度の実績になると思っている。空き家を改築することが先ではなく、空き家の利用目的に沿って改築する。これまでのJR遠野駅を中心とした中心市街地だけではなく、各町の中心部で、例えば居酒屋をやりたいという方の目的に沿った個別の計画を立てていく。



一般財団法人TRC 電話 60-1310 ご相談はこちらに

問 この事業に関わらず、市民理解を得る周知を行っていただきたい。

答(市長) 本事業も宣伝しなければ進まないと思っている。市民の皆様に向けて、説明させていただいて、物件の情報をいただくということはないと事業が進まないと思うので、非常に重要なことだと思っている。

設立目的は

市長 空き家等、行政で手出しできない物件に対応する

問 一般財団法人TRCは第三セクターか。

答(市長) 遠野市の新たな第三セクターであると認識している。議会への毎年の収支状況報告も行う。

問 予算が既に承認されており、出えん金だから議決しないと説明を聞いている。予算が承認される前に出えん金の支出となれば議決が必要と考えるが。

答(市長) 予算承認されていない場合は、出えん金も出資金と同様に議決が必要と考える。過去、議会に行った説明は誤りであった。

堆肥センターの現状と課題について

市長 肥料高騰、これから堆肥の担う役割非常に大きくなっていく

問 作業機材、運搬用トラック等、老朽化が進んでいるように見受けられるが現状は。

答(市長) 堆肥センターの設備は、適宜補修しながら進めている。

答(市長) 現在、堆肥センターの稼働率が70%前後、この先一般家庭向けのいろいろな商品を作るのであれば、スペースを増やしたい。現時点では充分と思われるが、合理的な考えのもとに、話し合いを進めながら検討していく。

問 堆肥製造には、長年の経験と技能が重要と思われるが、その人材育成をどう進めていくか。

答(市長) 経験値を取り入れたしっかりとしたマニュアルを作成し、誰でも対応できるように体制づくりが必要と考える。

問 製造された堆肥の置く場所、バックヤードは充分か。

問 堆肥製造には、長年



堆肥の担う役割これから大きくなる

リスキング“社会人の学び直し”を取り入れた遠野市の観光について

市長 自己投資するその気持ちが成長に繋がる



語り部の熱演

問 これから伸びる当市の観光、宿泊業にリスキング「社会人の学び直し」が必要と思われるが見解は。

答(市長) 市役所では、講習会、視察研修を進めている。外部からも講師をお招きしながら勉強していただいている。それ以外にも、職場において、材料は準備しても一番重要なのは、個々のやる気の問題が非常に大きい。自分に対する投資、自己投資するその気持ちが成長にも繋がるし、それが遠野市の発展にもつながることを今後推進していきたい。

問 観光ガイド、語り部の現状は。

答(市長) 現在ガイド26名、令和4年度案内した観光客は、1033人。若

問 今後の遠野市の観光について。

答(市長) 観光は遠野市にとって重要な産業であり、まだまだ伸びしろがある。「持続可能な観光まちづくり」にするには、たくさんのプレイヤー、参加者、関係者がいて成り立つ。市長の思いだけでなく、地域住民の満足度が重要と考える。

